

11. その他中心市街地の活性化のために必要な事項

[1] 基本計画に掲げる事業等の推進上の留意事項

(1) 個別事業等に関連した実践的・試行的な活動の内容・結果等

・ 犀川周辺エリア利活用推進

河川管理者が、国の財政的支援を受けられる「かわまちづくり支援制度」を活用して、必要なハード整備を促進すべく、河川管理者である県と共同で「犀川かわまちづくり計画」を作成し、令和3年8月20日に国の登録を受けました。

また、官民連携による利活用の推進母体として、地域住民、商店街、まちづくり企業、関係行政機関などを構成員とし、有識者をアドバイザーに迎えた「犀川利活用推進協議会」を設立し、官民連携利活用の社会実験イベントを開催し、ハード・ソフトの両面から課題を検証するなどしながら、取組を進めています。

・ 片町四番組海側地区再開発事業

地元で構成される「片町四番組まちづくり協議会」を発足し、地元主体でまちづくりの方向性や老朽化した建物の更新手法、片町商店街全体を対象にした片町のあり方について勉強会等を開催、「片町四番組海側地区準備組合」を設立し、市民へのアンケート調査や上位計画との整合性の検討、複数の大手デベロッパーとの意見交換等を経て、第一種市街地再開発事業につながりました。

・ 中心市街地都市機能向上事業 まちなみ形成事業

本事業の方向性については、平成26～27年度にわたり、地元でのワークショップを実施し、住民と意見交換を行いながら決定・実施しています。

[2] 都市計画との調和等

[都市像 世界の「交流拠点都市金沢」(平成25年3月)]

コンパクトな都市機能の集積

○人口減少社会に対応した都市づくりを進めるため、原則的に、市街地の拡大を行わず、商業施設や公共施設等の立地を誘導するなど、主要な都市機能を都心部に緩やかに凝縮します。

○旧城下町区域の中心市街地は金沢らしさの象徴であり、都市全体の核となるエリアとして、歴史文化資産の保存、活用に努めるとともに、定住の促進や商業、業務機能の集約、交流人口の拡大、公共交通を優先した歩行者中心の交通政策を積極的に推進し、活力と賑わいのある中心市街地の形成に取り組みます。

○金沢駅周辺は重要交通結節点として位置付け、金沢の玄関口として整備するとともに、金沢駅から香林坊、片町に至る都心軸沿線にあっては、老朽ビルの建替を促進し、商業、業務機能など、近代的都市としての金沢の顔となる機能を集積します。

[世界の交流拠点都市金沢 重点戦略計画（平成26年2月）]

主要施策

魅力づくり～個性を伸ばす～

- ・歴史文化資産の活用 ・MICEの促進 ・観光力の強化 など

まちづくり～都市機能を高める～

- ・品格あるまちづくりの推進 ・コンパクトな都市機能の集積
- ・情報インフラの整備・充実 ・交通ネットワークの確立 など

[金沢市都市計画マスタープラン（令和元年8月策定、立地適正化計画を含む）]

基本方針（3つのうちの1つ）

「中心市街地を核とした都市機能の集積と公共交通重要路線沿線へ居住が誘導された集約都市（軸線強化型都市構造）の形成」

市街地の拡大は原則として行わないものとし、中心市街地を核として、居住や商業・業務などの都市機能を集積するとともに、都心軸などの公共交通重要路線を軸として、その沿線や地域・生活拠点に居住や各種施設を誘導することで、集約都市（軸線強化型都市構造）の形成を目指します。

集約都市（軸線強化型都市構造）の形成の方針

- ①中心市街地への都市機能の集積
- ②都心軸の機能強化
- ③公共交通重要路線沿線への居住誘導
- ④地域の賑わいと交流を支える拠点の創造
- ⑤地域コミュニティや暮らしの維持・充実

↓↑

多様な移動手段を選択できるタウンライフへの転換

[第2次金沢交通戦略（平成28年3月作成）]

基本的考え方

（継続）歩行者と公共交通優先のまちづくり

（新）まちなかを核にネットワークでつなぐまちづくり

基本方針

- ①交通ネットワークの再構築～まちなかと郊外をつなぐ公共交通の強化～
- ②交通機能の連携強化～円滑な交通結節～
- ③交通利用環境の向上～より利用しやすい環境づくり～
- ④歩行者と公共交通の優先～マイカーから公共交通への転換～
- ⑤広域・圏域交通による交流の推進～新幹線時代への対応～

[3] その他の事項

(a) 環境・エネルギー等への配慮

金沢市環境基本計画（第3次）では、「基本目標Ⅰ 環境への負荷が小さいまちをつくる」の「分野目標1 地球温暖化を防止します」において、「(4) 環境にやさしい交通政策の推進」を掲げ、公共交通の利用性向上と利用促進や歩く人と自転車にやさしい交通環境の整備を推進していくこととしており、本活性化基本計画においても、このことに配慮して事業を選定しています。

(b) 国の地域活性化施策との連携

○第2次金沢版総合戦略

国の「第2期まち・ひと・しごと創生総合戦略」に呼応して策定した「第2次金沢版総合戦略」の「基本目標4 周辺地域と連携し、心地よく暮らしやすいまちをつくる (2) コンパクトシティの形成」で、交通ネットワークの再構築や居心地が良く歩きたくなるまちなかの実現を掲げています。

○金沢市SDGs未来都市計画

国から「SDGs未来都市・自治体モデル事業」に選定されたことを受けて策定した「金沢市SDGs未来都市計画」において、自治体SDGsモデル事業として、「市民生活と調和した持続可能な観光振興～「責任ある観光」により市民と観光客、双方の「しあわせ」を実現するまち金沢～」を掲げ、「金沢の「日本の由緒あるほんもの」の豊かさを市民・来街者の双方が理解した上で、まちの魅力を共創し、持続可能なまちを実現する。」としています。

本活性化基本計画においても、これらのことに配慮して事業を選定しています。